



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年10月28日

上場会社名 鳥居薬品株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4551 URL <http://www.torii.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高木 正一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 山本 賢 (TEL) 03(3231)6811
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の業績(平成28年1月1日～平成28年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	43,768	△2.4	2,574	△26.3	2,713	△26.0	1,755	△24.7
27年12月期第3四半期	44,841	—	3,494	—	3,666	—	2,331	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
28年12月期第3四半期	円 銭 62 04	円 銭 —
27年12月期第3四半期	82 37	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
28年12月期第3四半期	百万円 96,711	百万円 83,071	% 85.9
27年12月期	98,868	82,826	83.8

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 83,068百万円 27年12月期 82,826百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
27年12月期	円 銭 —	円 銭 24 00	円 銭 —	円 銭 24 00	円 銭 48 00
28年12月期	—	24 00	—		
28年12月期(予想)				24 00	48 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,500	△3.0	3,000	△39.0	3,100	△39.6	2,100	△40.5	74 21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※上記のほか、決算及び業績予想に関する参考情報を、別途「2016年12月期第3四半期決算 参考資料」に記載しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

28年12月期3Q	28,800,000株	27年12月期	28,800,000株
-----------	-------------	---------	-------------

② 期末自己株式数

28年12月期3Q	500,931株	27年12月期	500,768株
-----------	----------	---------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

28年12月期3Q	28,299,174株	27年12月期3Q	28,299,737株
-----------	-------------	-----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

- ◇ 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- ◇ 研究開発の遅延又は中止
- ◇ 薬価の決定、改定
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 製商品の供給停止、回収
- ◇ 訴訟の提起

業績予想については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績	2
(2) 財政状態	3
(3) 研究開発活動	3
(4) 業績予想などの将来予測情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績

当第3四半期累計期間の経営成績につきましては、以下のとおりであります。

	平成27年12月期 第3四半期累計期間	平成28年12月期 第3四半期累計期間	増減額	増減率
売上高(百万円)	44,841	43,768	△1,072	△2.4%
営業利益(百万円)	3,494	2,574	△919	△26.3%
経常利益(百万円)	3,666	2,713	△952	△26.0%
四半期純利益(百万円)	2,331	1,755	△575	△24.7%

売上高は、平成28年4月に実施された薬価改定において、通常の薬価引き下げのほか、「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」及び「リオナ錠(高リン血症治療剤)」が市場拡大再算定の対象品目となったこと等により、43,768百万円と前年同期に比べ1,072百万円(2.4%)減少しました。

主要な製品・商品の販売状況につきましては、「リオナ錠」が4,021百万円と前年同期に比べ514百万円(14.7%)、「シダトレン スギ花粉舌下液(減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬)」が620百万円と前年同期に比べ336百万円(118.5%)、「スタリビルド配合錠(抗HIV薬)」が2,239百万円と前年同期に比べ36百万円(1.7%)、「ツルバダ配合錠(抗HIV薬)」が9,351百万円と前年同期に比べ17百万円(0.2%)それぞれ増加しましたが、「レミッチカプセル」が9,921百万円と前年同期に比べ1,288百万円(11.5%)、「アンテベート(外用副腎皮質ホルモン剤)」が4,625百万円と前年同期に比べ403百万円(8.0%)それぞれ減少しました。なお、平成28年7月に販売を開始しました「ゲンボイヤ配合錠(抗HIV薬)」については669百万円となりました。

費用面におきましては、売上原価は21,857百万円と前年同期に比べ247百万円(1.1%)減少し、販売費及び一般管理費は研究開発費が減少しましたが、パソコン更新による一過性の費用の発生があったこと等により、19,337百万円と前年同期に比べ94百万円(0.5%)増加しました。

以上の結果、営業利益は2,574百万円と前年同期に比べ919百万円(26.3%)減少し、経常利益は2,713百万円と前年同期に比べ952百万円(26.0%)減少しました。四半期純利益につきましては、1,755百万円と前年同期に比べ575百万円(24.7%)減少しました。

なお、日本たばこ産業株式会社(以下、「JT」)から平成27年3月に販売権を取得した抗HIV薬「エムトリシタピン/テノホビル アラフェナミドフマル酸塩配合錠」につきまして、JTが平成28年8月に日本国内における製造販売承認申請を行っております。

(2) 財政状態

当第3四半期会計期間末の総資産は、96,711百万円と前事業年度末に比べ2,157百万円(2.2%)減少しました。これは、現金及び預金が7,097百万円、商品及び製品が1,246百万円、キャッシュ・マネージメント・システム預託金が777百万円増加しましたが、有価証券が6,402百万円、受取手形及び売掛金が3,807百万円、投資その他の資産に含まれる投資有価証券が1,551百万円減少したこと等によるものです。

負債につきましては、13,639百万円と前事業年度末に比べ2,402百万円(15.0%)減少しました。これは、未払法人税等が1,574百万円、流動負債のその他に含まれる未払金が1,457百万円減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、83,071百万円と前事業年度末に比べ245百万円(0.3%)増加しました。これは、主に利益剰余金が397百万円増加したことによるものです。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は3,577百万円であります。

現時点における主な研究開発の状況につきましては、「2016年12月期第3四半期決算 参考資料」に記載しております。

なお、平成28年8月、当社とJTは、Menlo Therapeutics社と、当社が開発を進めてきたニューロキニン1(NK-1)受容体アンタゴニスト(国際一般名:serlopitant)につきまして、日本国内における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結しました。本剤の開発についてはJTと当社が行い、販売については当社が行うこととなります。

また、東レ株式会社(以下、「東レ」)が製造販売承認を取得し、当社が日本国内において販売中の「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」(提携:JT)につきまして、東レは、平成28年9月に日本国内における腹膜透析患者におけるそう痒症(既存治療で効果不十分な場合に限る)を適応症とした効能追加申請を行っております。

さらに、平成28年10月、JTが日本国内での臨床開発を実施しているJAK阻害剤「JTE-052」の皮膚外用製剤につきまして、日本国内における今後の共同開発及び販売に関する契約を締結しました。本剤の開発についてはJTと当社が行い、販売については当社が行うこととなります。

(4) 業績予想などの将来予測情報

通期の業績予想につきましては、前回発表(平成28年7月28日「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」)の当該予想数値を以下のとおり修正しております。

	平成28年12月期 前回予想	平成28年12月期 修正予想	対前回予想 増減額	対前回予想 増減率	平成27年12月期 実績
売上高(百万円)	61,000	60,500	△500	△0.8%	62,378
営業利益(百万円)	3,000	3,000	—	—	4,919
経常利益(百万円)	3,100	3,100	—	—	5,135
当期純利益(百万円)	2,000	2,100	100	5.0%	3,527

売上高につきましては、製商品売上高は概ね計画のとおり進捗しておりますが、コ・プロモーション(共同販促活動)収入が主に乾癬治療薬「トルツ」の発売時期の遅れにより減少することから、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、売上高は減少するものの、研究開発費の減少及び更なる経費節減による販売費及び一般管理費の減少により、前回発表予想を維持する見通しとなりました。

なお、当期の配当金につきましては、1株当たり年間48円(中間配当金24円、期末配当金24円)を予定しており、前回発表予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第2四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,361	21,459
キャッシュ・マネージメント・システム預託金	4,348	5,126
受取手形及び売掛金	27,904	24,097
有価証券	18,708	12,305
商品及び製品	6,132	7,378
仕掛品	508	677
原材料及び貯蔵品	3,195	3,663
その他	1,994	2,266
流動資産合計	77,155	76,976
固定資産		
有形固定資産	6,182	5,818
無形固定資産	955	903
投資その他の資産	14,575	13,012
固定資産合計	21,713	19,734
資産合計	98,868	96,711
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,853	6,873
未払法人税等	1,915	340
賞与引当金	660	1,337
役員賞与引当金	54	35
返品調整引当金	1	2
その他	4,988	3,443
流動負債合計	14,472	12,033
固定負債		
退職給付引当金	393	563
その他	1,176	1,042
固定負債合計	1,569	1,606
負債合計	16,042	13,639
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,190	5,190
資本剰余金	6,416	6,416
利益剰余金	71,384	71,782
自己株式	△863	△863
株主資本合計	82,127	82,524
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	698	544
評価・換算差額等合計	698	544
新株予約権	—	2
純資産合計	82,826	83,071
負債純資産合計	98,868	96,711

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	44,841	43,768
売上原価	22,104	21,857
売上総利益	22,737	21,911
販売費及び一般管理費		
販売促進費	3,606	3,552
給料及び手当	4,316	4,365
賞与引当金繰入額	1,149	1,134
研究開発費	3,667	3,577
その他	6,502	6,705
販売費及び一般管理費合計	19,242	19,337
営業利益	3,494	2,574
営業外収益		
受取利息	64	34
受取配当金	9	12
為替差益	58	38
その他	41	55
営業外収益合計	174	140
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	2	1
営業外費用合計	2	1
経常利益	3,666	2,713
特別損失		
固定資産除却損	42	17
減損損失	50	—
特別損失合計	93	17
税引前四半期純利益	3,573	2,696
法人税等	1,242	941
四半期純利益	2,331	1,755

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

2016年12月期 第3四半期決算 参考資料

I サマリー情報	P.1
① 経営成績	P.1
② 財政状態	P.1
II 2016年12月期 第3四半期実績	P.2
① 四半期損益計算書	P.2
② 製商品別売上高	P.4
③ 四半期貸借対照表	P.5
④ 設備投資の状況	P.6
⑤ 非資金項目	P.6
⑥ 研究開発の状況	P.6
III 2016年12月期 業績予想	P.7
① 損益計算書	P.7
② 製商品別売上高	P.9
③ 設備投資の状況	P.10
④ 非資金項目	P.10
⑤ 配当	P.10
【将来に関する記述等についてのご注意】	P.10

※ 本資料は累計期間に係る情報を掲載しており、百万円未満を切捨てて表示しております。

2016年10月28日



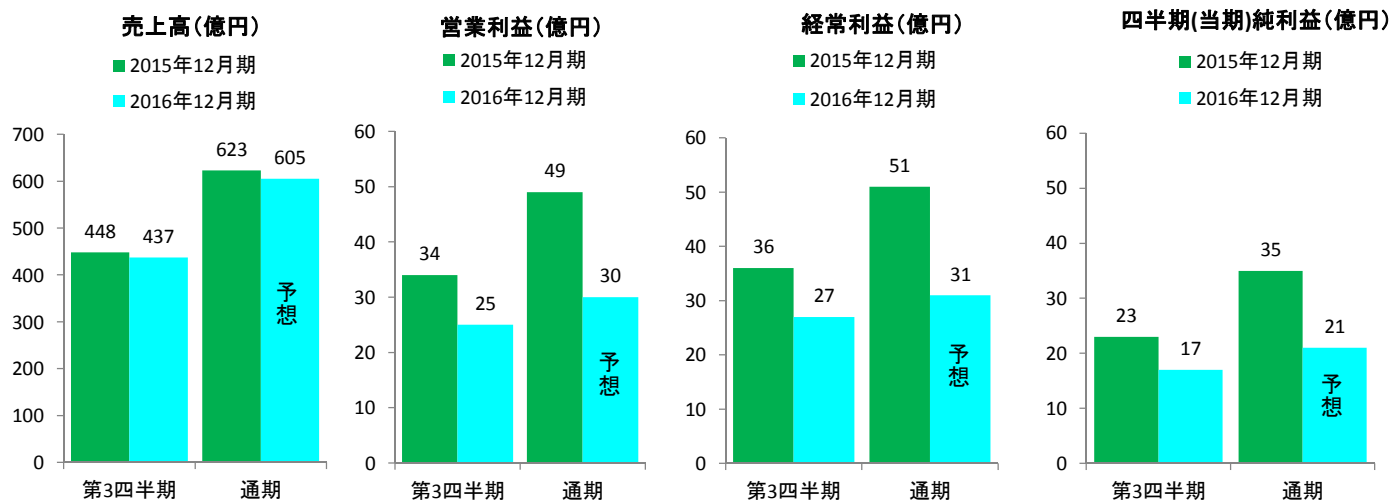
鳥居薬品株式会社

I サマリー情報

① 経営成績

※2016年12月期 業績予想については、2016年7月28日「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」で発表しております予想数値を修正しております。

(単位:百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A	2015年12月期 実績	2016年12月期 修正予想 C	対予想 進捗率(%) B/C
売上高	44,841	43,768	△1,072	△2.4	62,378	60,500	72.3
営業利益	3,494	2,574	△919	△26.3	4,919	3,000	85.8
経常利益	3,666	2,713	△952	△26.0	5,135	3,100	87.5
四半期(当期)純利益	2,331	1,755	△575	△24.7	3,527	2,100	83.6
(参考)							
研究開発費	3,667	3,577	△90	△2.5	5,237	5,000	71.5
1株当たり四半期(当期) 純利益(EPS)	(円) 82.37	62.04	△20.33		124.65	74.21	
自己資本四半期(当期) 純利益率(ROE)	(%) 2.9	2.1	△0.8		4.3	-	
総資産経常利益率	(%) 3.8	2.8	△1.0		5.4	-	
売上高営業利益率	(%) 7.8	5.9	△1.9		7.9	-	
総資産四半期(当期) 純利益率(ROA)	(%) 2.4	1.8	△0.6		3.7	-	



② 財政状態

(単位:百万円)	2015年12月期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
総資産	98,868	96,711	△2,157	△2.2
純資産	82,826	83,071	245	0.3
自己資本比率	(%) 83.8	85.9	2.1	
1株当たり純資産(BPS)	(円) 2,926.81	2,935.40	8.59	

Ⅱ 2016年12月期 第3四半期実績

① 四半期損益計算書

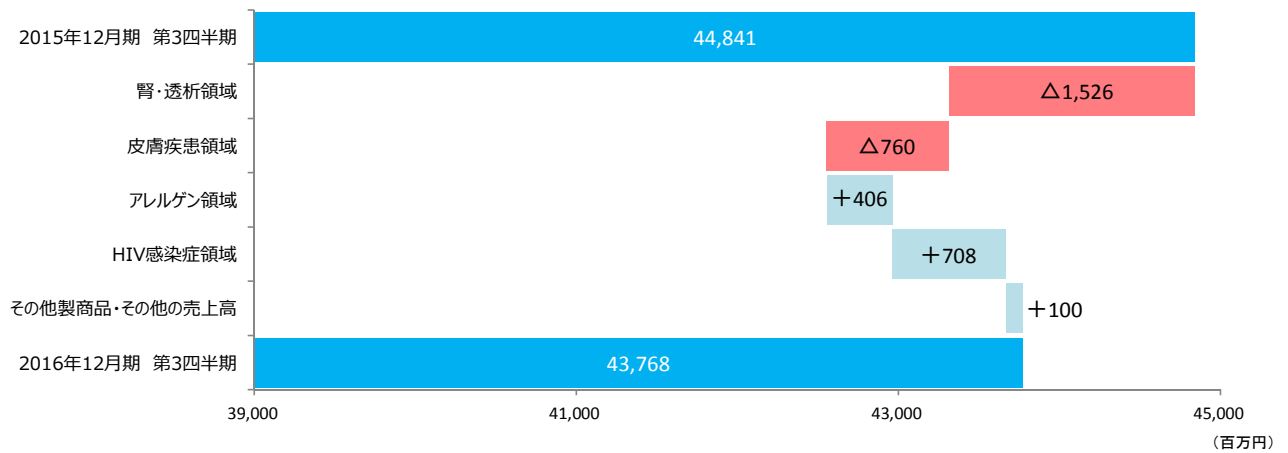
(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)
	第3四半期 A	第3四半期 B		
売上高	44,841	43,768	△1,072	△2.4
製商品売上高	44,506	43,329	△1,176	△2.6
腎・透析領域	19,752	18,226	△1,526	△7.7
皮膚疾患領域	8,082	7,321	△760	△9.4
アレルギー領域	575	982	406	70.6
HIV感染症領域	11,727	12,435	708	6.0
その他	4,368	4,364	△3	△0.1
その他の売上高	335	439	104	31.0
売上原価	22,104	21,857	△247	△1.1
製商品売上原価	22,063	21,807	△256	△1.2
その他の原価	40	49	9	23.7
売上総利益	22,737	21,911	△825	△3.6
販売費及び一般管理費	19,242	19,337	94	0.5
販管費(研究開発費除く)	15,574	15,759	184	1.2
研究開発費	3,667	3,577	△90	△2.5
営業利益	3,494	2,574	△919	△26.3
営業外収益	174	140	△34	—
営業外費用	2	1	△1	—
経常利益	3,666	2,713	△952	△26.0
特別損失	93	17	△76	—
税引前四半期純利益	3,573	2,696	△876	△24.5
法人税等	1,242	941	△301	—
四半期純利益	2,331	1,755	△575	△24.7

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2015年12月期	2016年12月期	増減
	第3四半期 A	第3四半期 B	
売上原価	49.3	49.9	0.6
販売費及び一般管理費	42.9	44.2	1.3
研究開発費	8.2	8.2	0.0
営業利益	7.8	5.9	△1.9
経常利益	8.2	6.2	△2.0
四半期純利益	5.2	4.0	△1.2

【対前年同期増減要因】

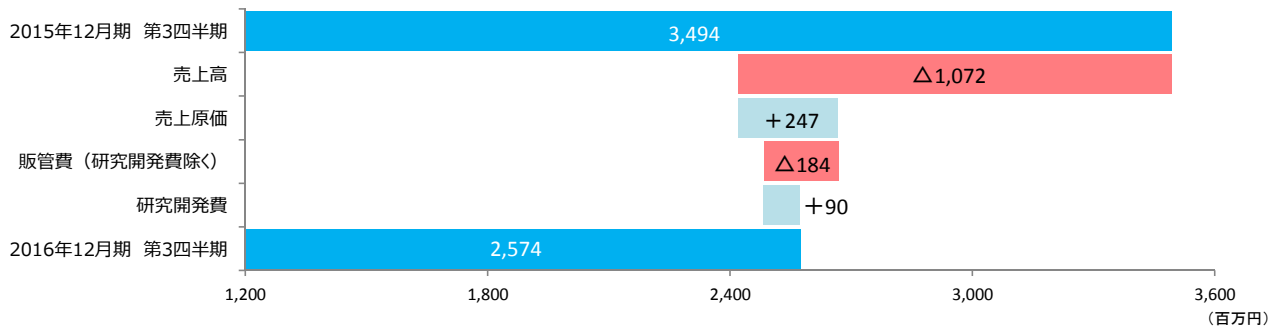
売上高（43,768百万円 対前年同期 △1,072百万円）



主な増減要因

腎・透析領域	: レミッチカプセル	△1,288百万円	、	注射用フサン	△428百万円
	: リオナ錠	+514百万円			
皮膚疾患領域	: アンテベート	△403百万円			
アレルギー領域	: シダトレン スギ花粉舌下液	+336百万円			
HIV感染症領域	: ゲンボイヤ配合錠	+669百万円			
※詳細はP.4「② 製商品別売上高」を参照					

営業利益（2,574百万円 対前年同期 △919百万円）



主な増減要因

売上原価	: 売上高の減少、販売品目の構成変化
販管費（研究開発費除く）	: パソコン更新による増加
研究開発費	: 臨床試験費用（TO-206）の減少、Menlo Therapeutics社との契約に伴う一時金支払による増加

経常利益（2,713百万円 対前年同期 △952百万円）

特記事項：特になし

四半期純利益（1,755百万円 対前年同期 △575百万円）

特記事項：特になし

② 製商品別売上高

(単位:百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減額 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
製商品売上高	44,506	43,329	△1,176	△2.6
レミッチカプセル	11,209	9,921	△1,288	△11.5
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]				
ツルバダ配合錠	9,334	9,351	17	0.2
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
アンテベート ※1	5,029	4,625	△403	△8.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
リオナ錠	3,506	4,021	514	14.7
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]				
スタビルド配合錠	2,202	2,239	36	1.7
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
ビオスリー	1,641	1,765	123	7.5
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]				
注射用フサン ※1	2,190	1,762	△428	△19.5
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]				
ケイキサレート ※1	1,659	1,605	△54	△3.3
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]				
ロコイド ※1	1,054	1,011	△42	△4.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]				
ゼフナート	1,054	993	△60	△5.7
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]				
ユリノーム錠 ※1	1,185	915	△270	△22.8
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]				
マグセント	830	822	△7	△0.9
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]				
ゲンボイヤ配合錠 ※2	—	669	669	—
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]				
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	283	620	336	118.5
スギ花粉症の減感作療法(アレルゲン免疫療法)薬 [アレルゲン領域]				
その他製商品	3,322	3,003	△318	△9.6

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しました。

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位:百万円)	2015年12月期 第3四半期 A	2016年12月期 第3四半期 B	増減 B-A	増減率 (%) (B-A)/A
自社品売上高	12,728	11,897	△830	△6.5
自社品比率 (%)	28.6	27.5	△1.1	—

③ 四半期貸借対照表

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%)	構成比 (%)
	A	第3四半期 B			
流動資産	77,155	76,976	△178	0.2	79.6
現金及び預金	14,361	21,459	7,097		
キャッシュ・マネジメント・システム預託金	4,348	5,126	777		
受取手形及び売掛金	27,904	24,097	△3,807		
有価証券	18,708	12,305	△6,402		
たな卸資産	9,836	11,720	1,883		
その他	1,994	2,266	272		
固定資産	21,713	19,734	△1,978	△9.1	20.4
有形固定資産	6,182	5,818	△364		
無形固定資産	955	903	△51		
投資その他の資産	14,575	13,012	△1,563		
投資有価証券	6,800	5,249	△1,551		
長期前払費用	6,530	6,431	△99		
その他	1,244	1,332	87		
資産合計	98,868	96,711	△2,157	△2.2	100.0
流動負債	14,472	12,033	△2,439	△16.9	12.4
買掛金	6,853	6,873	20		
未払金	3,287	1,829	△1,457		
未払法人税等	1,915	340	△1,574		
賞与引当金	660	1,337	677		
その他	1,755	1,651	△104		
固定負債	1,569	1,606	36	2.3	1.7
負債合計	16,042	13,639	△2,402	△15.0	14.1
株主資本	82,127	82,524	396	0.5	85.3
評価・換算差額等	698	544	△154	△22.1	0.6
新株予約権	—	2	2	—	0.0
純資産合計	82,826	83,071	245	0.3	85.9
負債純資産合計	98,868	96,711	△2,157	△2.2	100.0

主な増減要因

(流動資産)

- 受取手形及び売掛金 : 売上高の減少による減少
- 有価証券 : 金銭信託の償還による減少
- たな卸資産 : 商品の増加

(固定資産)

- 投資有価証券 : 有価証券への振替による減少

④ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第3四半期	第3四半期		
	A	B		
設備投資額	1,198	601	△596	△49.8
有形固定資産	930	420	△510	△54.8
無形固定資産	267	181	△85	△32.1

当期の設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

⑤ 非資金項目

(単位:百万円)	2015年12月期	2016年12月期	増減額	増減率 (%) (B-A)/A
	第3四半期	第3四半期		
	A	B		
減価償却費	1,062	1,000	△62	△5.8
長期前払費用償却費	627	759	132	21.2

⑥ 研究開発の状況

開発番号 「製品名」	予定適応症等	剤形等	開発段階 (国内)					備考
			Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
腎・透析領域								
JTT-751 「リオナ錠」	鉄欠乏性貧血	経口剤		Phase II				<ul style="list-style-type: none"> ・ケリックス社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ・日本たばこ産業(株)との共同開発 ・日本たばこ産業(株)が2014年1月17日に製造販売承認取得 ・高リン血症治療剤として販売中
アレルギー領域								
TO-203 「ミティキュア タニ舌下錠」	室内塵ダニアレルギー疾患 (アレルギー性喘息) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠		Phase II / III 終了※				<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発 ※今後の開発方針について検討中
	室内塵ダニアレルギー疾患 (小児アレルギー性鼻炎) (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ・ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ・自社開発
TO-206	スギ花粉症 (減感作療法 (アレルギー免疫療法) 薬)	舌下錠				申請		<ul style="list-style-type: none"> ・自社開発 ・2015年12月25日に製造販売承認申請

上記のほか、以下の契約を締結しております。

- ・2016年8月 Menlo Therapeutics社が開発を進めているニューロキニン1 (NK-1) 受容体アンタゴニスト (国際一般名: serlopitant) の日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約 (日本たばこ産業(株)との共同開発)
- ・2016年10月 日本たばこ産業(株)が日本での臨床開発を実施しているJAK阻害剤「JTE-052」皮膚外用製剤の日本における共同開発及び販売に関する契約

Ⅲ 2016年12月期 業績予想

※2016年12月期 業績予想については、2016年7月28日「平成28年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」で発表しております予想数値を修正しております。

① 損益計算書

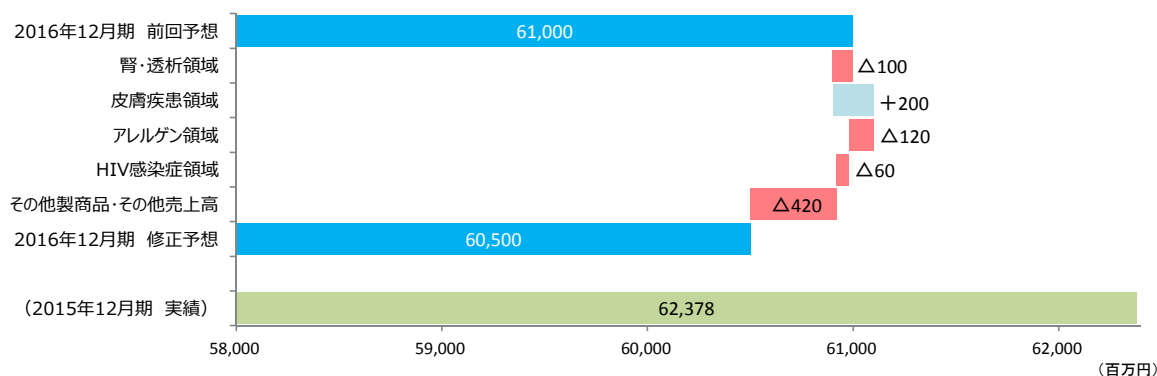
(単位:百万円)	2016年12月期	2016年12月期	修正額	2015年12月期	増減額	増減率 (%) (B-C)/C
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C		
売上高	61,000	60,500	△500	62,378	△1,878	△3.0
製商品売上高	59,900	59,900	—	61,861	△1,961	△3.2
腎・透析領域	25,630	25,530	△100	27,627	△2,097	△7.6
皮膚疾患領域	9,520	9,720	200	10,970	△1,250	△11.4
アレルギー領域	1,560	1,440	△120	905	534	59.0
HIV感染症領域	17,320	17,260	△60	16,330	929	5.7
その他	5,870	5,950	80	6,028	△78	△1.3
その他の売上高	1,100	600	△500	517	82	16.0
売上原価	30,500	30,400	△100	30,814	△414	△1.3
売上総利益	30,500	30,100	△400	31,564	△1,464	△4.6
販売費及び一般管理費	27,500	27,100	△400	26,645	454	1.7
販管費（研究開発費除く）	22,300	22,100	△200	21,408	691	3.2
研究開発費	5,200	5,000	△200	5,237	△237	△4.5
営業利益	3,000	3,000	—	4,919	△1,919	△39.0
経常利益	3,100	3,100	—	5,135	△2,035	△39.6
当期純利益	2,000	2,100	100	3,527	△1,427	△40.5

(参考) 売上高に対する比率

(単位:%)	2016年12月期	2016年12月期	増減	2015年12月期	増減
	前回予想 A	修正予想 B		実績 C	
売上原価	50.0	50.2	0.2	49.4	0.8
販売費及び一般管理費	45.1	44.8	△0.3	42.7	2.1
研究開発費	8.5	8.3	△0.2	8.4	△0.1
営業利益	4.9	5.0	0.1	7.9	△2.9
経常利益	5.1	5.1	0.0	8.2	△3.1
当期純利益	3.3	3.5	0.2	5.7	△2.2

【2016年12月期 対前回予想増減要因】

売上高（60,500百万円 対前回予想△500百万円）

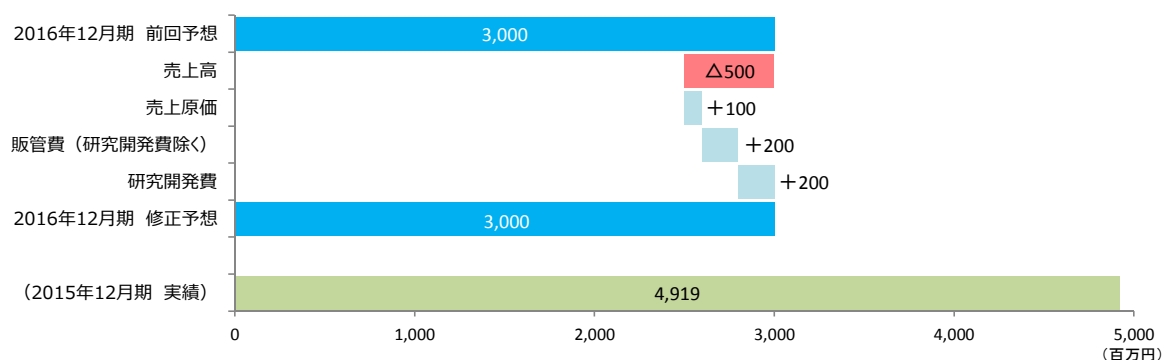


主な増減要因

腎・透析領域	: リオナ錠	△220百万円、	レミッチカプセル	+170百万円
HIV感染症領域	: スタビルド配合錠	△600百万円、	ゲンボイヤ配合錠	+620百万円
その他製商品・その他売上高	: コ・プロモーション収入	△500百万円		

※詳細はP.9「② 製商品別売上高」を参照

営業利益（3,000百万円 対前回予想変更なし）



主な増減要因

売上原価	: 販売品目の構成変化
販管費（研究開発費除く）	: 経費節減による効果
研究開発費	: 臨床試験費用（TO-203）の減少

経常利益（3,100百万円 対前回予想変更なし）

特記事項：特になし

当期純利益（2,100百万円 対前回予想+100百万円）

特記事項：特になし

② 製商品別売上高

(単位: 百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
製商品売上高	59,900	59,900	-	61,861	△1,961	△3.2
レミッチカプセル	13,350	13,520	170	15,636	△2,116	△13.5
経口そう痒症改善剤 [腎・透析領域]						
ツルバダ配合錠	12,850	12,970	120	12,938	31	0.2
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
アンテベート ※1	6,190	6,250	60	6,881	△631	△9.2
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
リオナ錠	6,290	6,070	△220	5,034	1,035	20.6
高リン血症治療剤 [腎・透析領域]						
スタビルド配合錠	3,170	2,570	△600	3,133	△563	△18.0
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
注射用フサン ※1	2,530	2,510	△20	3,062	△552	△18.0
蛋白分解酵素阻害剤 [腎・透析領域]						
ピオスリー	2,470	2,420	△50	2,272	147	6.5
活性生菌製剤(整腸剤) [その他]						
ケイキサレート ※1	2,200	2,180	△20	2,288	△108	△4.7
高カリウム血症改善剤 [腎・透析領域]						
ゲンボイヤ配合錠 ※2	900	1,520	620	-	1,520	-
抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) [HIV感染症領域]						
ロコイド ※1	1,370	1,360	△10	1,417	△57	△4.0
外用副腎皮質ホルモン剤 [皮膚疾患領域]						
ユリノーム錠 ※1	1,260	1,250	△10	1,604	△354	△22.1
尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) [腎・透析領域]						
ゼフナート	1,110	1,230	120	1,407	△177	△12.6
抗真菌薬 [皮膚疾患領域]						
マグセント	1,120	1,130	10	1,143	△13	△1.2
切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 [その他]						
シダトレン スギ花粉舌下液 ※1	990	910	△80	511	398	77.8
スギ花粉症の減感作療法(アレルギー免疫療法)薬 [アレルギー領域]						
その他製商品	4,100	4,010	△90	4,528	△518	△11.4

※1 自社品

※2 「ゲンボイヤ配合錠」は、2016年7月に販売を開始しました。

(参考) 自社品売上高及び自社品比率

(単位: 百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
自社品売上高	16,470	16,350	△120	17,567	△1,217	△6.9
自社品比率 (%)	27.5	27.3	△0.2	28.4	△1.1	-

③ 設備投資の状況

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
設備投資額	1,101	1,112	11	2,207	△1,095	△49.6
有形固定資産	746	760	14	1,802	△1,042	△57.8
無形固定資産	355	352	△3	405	△53	△13.2

設備投資の内容

有形固定資産：主に生産能力向上を目的とする製造設備への投資
 無形固定資産：業務の効率化等を目的とするソフトウェアへの投資

④ 非資金項目

(単位:百万円)	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額 B-A	2015年12月期 実績 C	増減額 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
減価償却費	1,292	1,358	66	1,457	△99	△6.9
長期前払費用償却費	1,024	1,025	1	824	200	24.3

⑤ 配当

	2016年12月期 前回予想 A	2016年12月期 修正予想 B	修正額(率) B-A	2015年12月期 実績 C	増減 B-C	増減率 (%) (B-C)/C
1株当たり配当金 (円)	48	48	0	48	0	0.0
配当性向 (%)	67.9	64.7	△3.2	38.5	26.2	-

【将来に関する記述等についてのご注意】

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることができます。（かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。）

- ◇ 医薬品医療機器法その他の法令又は規制の変化
- ◇ 副作用の発現
- ◇ 研究開発の遅延又は中止
- ◇ 製商品の供給停止、回収
- ◇ 薬価の決定、改定
- ◇ 訴訟の提起